

第1回 福岡市黄砂影響検討委員会 議事録

日 時：平成 23 年 8 月 29 日(月)13:00～15:00

場 所：福岡市役所 15 階 1503 会議室

出席者：

委員長：鶴野 伊津志

委 員：市瀬 孝道、岸川 禮子、龍山 康朗、荒瀬 泰子、平原 晃三

事務局：福岡市環境局環境政策部部長、環境保全課長、環境保全課大気係長

議 事

- (1) 事業概要について
- (2) 黄砂飛来状況・特性について
- (3) 予測システム等について
- (4) 黄砂の被害・問題点について
- (5) その他

配付資料

資 料 1 福岡市黄砂影響検討委員会 第 1 回委員会資料

資 料 2 福岡市黄砂影響検討委員会設置要綱

資 料 3 委員名簿

1 開 会

- (1) 事務局より開会挨拶
- (2) 環境局長より挨拶

本日は本当にお暑い中、委員会にご参加いただきましてありがとうございます。そしてまた、急な委員会の設置でございましたけれども、快く委員の就任をお受けいただきまして、本当にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。

本来はこの委員会開催につきましては、高島市長が皆様方に直接ご挨拶申し上げることとなっておりますが、急遽、市長としてはうせない業務が入ってまいりましたので、私も委員の一人でございますが、環境局長の荒瀬が市長に代わりましてご挨拶をさせていただきます。

黄砂に関しましては、非常に市民の関心も高いところでございますし、国においても14年度から調査、研究が始まっておりますが、非常に難しい問題で、まだ解決を見るには至っていないところでございます。そういう中、市長も都市・環境・アジアというキーワードで政策を進めておりますが、アジアにもっとも近い福岡市といたしまして、今回、黄砂に関する健康問題や市民生活の影響を検討する委員会を設置したところでございます。非常に難しい問題ではございますが、幸いにも福岡市にはエキスパートの先生方も非常に多くおいで

でございますので、これまでの知見、それから今後どのように市民に対して情報を発信できるかということをご検討いただきまして、できれば私ども来年早々にも新しいシステムでの情報提供を始めたいと思っております。どうぞ忌憚ないご意見を出していただきまして、活発にご議論いただきますよう、お願いいたします。

- (3) 事務局より委員会設置について説明
- (4) 委員自己紹介
- (5) 委員長選出
- (6) 副委員長指名
- (7) 会議の公開に関する承認

2 議 事

(1) 事業の概要について

事務局 (資料1について説明)

委員長 今後の進め方としまして、これから本年度の末まで4回、委員会を開催し、検討内容は非常に盛りだくさんで、4回でできるかわかりません。黄砂については、ここ数年来、環境省や気象庁において黄砂の影響に対する検討会を行っており、私も環境省の委員会の委員を何年か務めていますが、未だに現状把握、測定が中心で、その影響がどういうところまで及ぶか、その情報をどう発信するかというところには至っておりません。

まだ1回目なので漠然としているかもしれませんが、皆様のご意見等をざっくりばらんに自由にお話していただければと思います。

委 員 私職業柄、予防というのは非常に重要だと思っておりますので、できる限り予防に対する情報発信をさせていただきたいと思っております。それから、昨年から猛暑が続いており、熱中症あたりにつきましても、メールを含め、今できる現状での情報発信という形でさせていただいておりますが、同じように黄砂や花粉等はわりと情報が発信されてまいりますので、そういうふうになればと思っております。

委 員 毎年2月1日から4月15日まで、福岡県の医師会で花粉情報をやっています。県全体で20件近くの花粉の調査ネットがあり、その中に花粉症の患者さんの情報があるので、それらを総合してひとつの情報網を作り上げて、毎日情報を出して20年近く続いております。そのようになるまでにはかなりいろんな基礎的な分野を話し合わないといけないと思います。私も今現在、黄砂が健康な人に与える影響と当院のアレルギー疾患や呼吸器疾患の人に対して少しずつ調べているので、この委員会にその結果を情報提供したいと思っております。

委 員 この委員会は、黄砂影響検討委員会ということになっていますが、九州の方で疫学調査いたしますと、黄砂だけではなく、煙霧も健康に影響があるということがわかっ

てきました。環境省のライダーで見ますと、九州地区には、煙霧より黄砂の方がずっと少ないのです。だから、煙霧も含めて、この委員会で検討されると良いかと思いません。それと、韓国では黄砂警報システムっていうものがあり、黄砂警報を出しています。そこまでやられるのかというところまで検討していただければ、市民の方々にいろんな数値も含めて情報提供ができるのではないかと思います。その辺りのところは、日本ではまだどこもやってないので、できれば福岡市さんが模範となって、そういう情報提供システムを作り上げられるんじゃないかと期待しております。

委員 大気汚染物質の光化学オキシダントは、市とか県でもホームページで注意報等の情報は出しているんですが、なかなかうまく伝わっておらず、前々から PR が必要だと思っておりました。運動会時期には、光化学オキシダントの濃度が上がってくると問い合わせも多くなります。我々も、マスクミとしてそれに対応しているのですが、やっぱり行政でしていただくと説得力が出てくると思います。黄砂でも注意報、警報というのは非常にわかりやすいと思うんです。これが福岡市初ということになると、各市町村もこれはうちもやるべきではないかという気運につながると思います。韓国でやっているわけですから、やっぱり韓国に近い福岡で次にそこまでできればいいなと思っています。

委員 光化学オキシダントは、学校からするとすごく影響が大きいです。具体的に申しますと、4月、5月の運動会シーズンは運動会当日だけではなく、練習もずっとあっており、昔に比べて子供たちの健康について、気にされる保護者も多いです。福岡市では、光化学オキシダント警報が出たら、教育委員会から運動会はやめてくださいと言われていています。その時には警報を出していただければありがたいと思うのですが、ちょっと長期とか中期とか一週間位のスパンで情報を提供してくださると保護者に対して説明しやすくなります。健康な人もそうでしょうけど、幼い子供たちはこういうことに気をつけたらいいですよっていう形で、少しきめ細かい情報の提供を考えてもらえると活用しやすくなるのではないかと思います。

委員長 黄砂だけじゃなくて、非常に重要なお話をありがとうございました。越境大気汚染のこともちゃんと取り扱うべきですね。黄砂が来ているっていうのは目に見えますが、大気汚染でオゾンが高そうかっていうのは目に見えないんです。通常黄砂が来るときには大気汚染物質もほとんど同時にきています。黄砂が来るときには粒子状物質の濃度も上がるし、オゾンの濃度も上がり得るし、2007年5月末に黄砂が来て運動会が中止になったときは、オゾンは確かに高かったのですが、そのあとオゾン濃度が少し低下ときに黄砂が来ていました。黄砂が来て、SPM濃度は高い中、子供たちがグラウンドで遊んでいる姿を見ていると、こういう情報は正しく発信して、伝えるべきところには伝えるのが良いと思います。特に喘息の入院歴があるような人に向けて、この委員会の成果が活用できればいいと思っています。

(2) 黄砂の飛来状況・特性について

事務局 (引き続き、資料1について説明)

委員 結局視程 5 キロを切るような大きな黄砂の時には、PM2.5 も SPM も高濃度になるけど、10 キロくらいだったらそんなに高くないということですか。

事務局 5 月 13 日のデータでは高くありません。明確には差が出なかったということです。気象台では 13 日に黄砂を観測したという報告がなされていますが、福岡市内の 1 局だけで SPM 濃度が高く、それ以外の測定局では他の日と変わりませんでした。また、PM2.5 濃度は特に高くなっていませんでした。

委員長 長崎のライダーの結果は少し違っていたかもしれません。

委員長 環境研のライダーっていうのは福岡ではなくて、一番近いとこだと長崎県大村市にありますから、場所的なずれはあるかもしれません。長崎に来るけどこっちに来ないってこともたまにありますから、微妙な差はあると思います。

委員 福岡市の観測地点の 16 箇所には選定基準はあるのですか。

事務局 16 箇所を大きく 2 つのパターンに分かれており、自動車の沿道の影響を見るという観点で 8 局あります。また、一般的な環境の状況ということで 8 局あり、特定の発生源の少ない場所、例えば学校などに置いています。いろんなことを考慮して代表的な場所を選ばせていただいております、実際に設置するとなると大きな機械を置く部屋が必要であるため測定が可能な場所を選び設置しています。

委員 追跡調査がしやすいところに置いていた方が、あとあとの影響は出しやすいかと思って、この 16 箇所がそういう追跡調査のことまで考えて付けることができるなら、また新しい調査がでてくるかと思ったものですから。

委員長 ここに示している測定局は既存のものなので、黄砂のために置いたものではないのですよね。黄砂のために置ければいいのですけど、設置費用がかなりかかります。

委員 測定局の半数は、自動車の排ガスとかを測るものだということですね。黄砂の粒径は平均 4 μm でしたが、自動車の排ガスの粒径はどのくらいですか。自動車の排ガスは SPM に入るけど、PM2.5 には入らないとか、そういうのはあるのですか。

委員 ディーゼルのすすは、大体 0.5 μm で、PM2.5 以下です。僕たちの観測している 1.7 μm 以上は、黄砂粒子でそれ以下がディーゼルの黒いすすです。

委員長 SPM から PM2.5 を引くと黄砂の寄与分をおおよそ見積もることが出来ます。ディーゼルの排ガス粒子の他にも硫酸塩粒子っていうのがあるのですが、それは 1 μm よりもずっと小さいです。硫酸塩粒子は越境大気汚染による寄与がおそらく一番大きくて、福岡県内から出る SO₂ からできる割合は、そんなに多くありません。

今いろいろ議論が盛り上がっていますが、黄砂のみの日と、煙霧と黄砂が一緒になった日、それをどうやって考えてくかがいろんな情報を発信するときのキーじゃないかって気がします。煙霧だけの日だと、SPM の 1 時間値の基準は超えません。煙霧と黄砂が一緒になった日にはその基準が超えるとか、この先少し注意しながら検討

する必要があると思います。

(3) 予測システム等について

事務局 (引き続き、資料1について説明)

委員 韓国の $2,070 \mu\text{g}/\text{m}^3$ は、日本の一番濃いときの何倍ですか。

事務局 福岡市でいうと、 $200 \mu\text{g}/\text{m}^3$ が高いレベルになりますので、そういう意味でいうと韓国は 10 倍高いレベルとなります。

委員 2007 年に韓国がどういう改定をしたのかわかりますか。

事務局 以前、警報は $1,000 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上でしたが、 $800 \mu\text{g}/\text{m}^3$ という厳しい数字に改定されたようです。警報が出たときは小学校が休校になると聞いたことがあります。

委員 以前、光化学オキシダントの注意報が発令された時、北九州市は運動会やめたのですが、福岡市は大丈夫だって実施しました。福岡県内もそうですが、韓国もどういう分け方をしているのか、どういう情報の流し方があるのか知りたいです。

委員長 韓国がどうしているかっていうのは、非常に重要な情報を与えてくれますから、何の基準で仕切りを作っているのかとか、どれくらいの予報を何キロくらいの解像度でやっているのかとか、何かの機会があったら調べたほうがいいかもしれませんね。

事務局 2時間連続してこの基準だった場合に、警報を出すとか注意報を出すとかかなり細かな予測に基づいた注意報の発令になっております。

委員長 確か韓国は、実測の他にも黄砂の予報モデル(ADAM)を持っているので、その結果も参考にしながら予報しているというのを聞いたことがあります。

この国立環境研究所のモデルは、私が作ったのですが、目盛りは地上の濃度でなくて上空 500m くらいまでの大体の平均濃度を計算しています。目安なので、高くなるというのは分かりますが、これほどの濃度レベルになるというものではありません。また、春の高いときにチューニングしているので、通年で使うと高くなります。計算されている絶対濃度が正しいかは検討しないといけません。

気象庁のモデルは、数値データを購入すると手に入りますが、九州大学や環境研のモデルや、スプリンターという竹村先生のモデルも数値データは出てきません。ただ、作った人が合意し依頼すると手にいらないことはないと思います。気象庁のモデルは、気象庁がオーソライズしています。環境研や九州大学のモデルは研究者が、自分の研究目的にあわせて作ったモデルなので、使えるデータが限られています。気象庁はネットワークをフルに使ったモデルです。環境研とか九州大学のモデルは、3日先、4日先とか、予報のデータは気象庁の予報データです。使えるデータに限りがあり、この先また出てくるとはありますが、注意すべき問題です。

委員 それは気象庁の方がデータをいっぱい持っているから良く当たるということですか。

委員長 地表面状態の細かいデータは気象庁が持っています。環境研とかスプリンター、竹村さんのモデルは配信される気象の予報結果(GPV など)を使って計算しています。

黄砂の発生領域の中国の砂漠はぬれているかとかいう情報は気象庁の方が正確で、気象庁はそういうデータも持っています。通常黄砂予報は地上の風を予報して計算しているのですが、気象庁は気象通報データというのがいっぱいありますから、それを使って直すことができます。

委員 委員長モデルを使いたいです、気象庁の予測は当たるのですか。どこを基準にしたらいいのでしょうか。

委員長 いい勝負だと思います。

事務局 福岡市では国のデータをどのように利用しているかと考えていますので、どの程度の精度があるのか、どの程度の不確かさなのかということも加味しながら考えていけないといけないと思っています。

委員 リアルタイムで黄砂か煙霧かという情報は、環境省のライダーがありますが、あれは使えますか。見ればすぐ分かりますか。

委員長 見る人が見たらわかります。環境省が設置しているレーザーレーダは、長崎県大村市にあります。おおよそ 30 分遅れでデータが公開されており、大気汚染粒子は球形で、黄砂の粒子は角張って非球形なので、レーザーの光を解析すると大気汚染と黄砂を判別することができます。それで、視程が悪いところは、煙霧か黄砂か判定するんですね。何割は大気汚染で何割は黄砂という情報がリアルタイムでわかります。長崎でわかった時は、福岡では手遅れかもしれませんが。

委員 大村からどのくらいで福岡へ来るのですか。

委員長 ほとんど同時。1時間変わらないと思います。

委員 黄砂の予報をする上では、何日前から予報するのかということはこれからやっていくのでしょうか、それには使えないにしても、注意報、警報を出すというのには使えますよね。

委員長 判断基準には使えます。

委員 煙霧か黄砂かというのはわかりますが、地上高いとこなのか、低いとこなのか。

委員長 黄砂は、地上低いときと高いときがあり、黄砂は上からいくことがあります。レーザーレーダを釜山とか濟州島に置いてもらえれば、すごく役に立つと思います。濟州島に置く話は聞いていますが、まだデータは公開されていません。

ただ、韓国の PM10 は地図の上で公開されているようですから、このデータをできるだけ早く入手して、何時間遅れかでホームページ上で公開しているのだと思います。それを参考にして、予報モデルの結果やライダーも参考にしていくと本当に来るかどうか、どのくらいのレベルでいつくらいに来るのか、大体はわかると思います。

委員 ソウルで高いときは、何時間前ですか。

委員長 ソウルからここまで半日くらいです。

ソウルが高ければ、福岡に半日先くらいに来るだろうと予測できます。

委員 ウランバトルのほうが最初に高くなるのですが、その後、ソウル、長崎へとだんだん

移動してきます。

委員長 どこが高いか大体わかります。中国以外のデータは表示されています。

委員 30分か、1時間後には出るのですか。

委員長 中国はデータを出してくれなくなっているのですが、韓国、モンゴルからは出ています。九州大学でもレーザーレーダを導入しようと考えていて、環境研の装置が地震の影響で調整が遅れていますが、年内には九大の春日キャンパスで動くのではないかと思います。それが動き始めると、福岡の上空にどれくらいのもんが来ているということを見えるようになります。ホームページ上で全部リアルタイムで公開されますので、動き始めたら報告します。

(4) 黄砂の被害・問題点について

事務局 (引き続き、資料1について説明)

委員 問7ですが、やっぱり家族に限定したほうがいいですか。できるだけそういう状況を持っている方のことを教えて欲しいというのであれば、例えば、「ご家族ご友人に」って入れては駄目ですか。

委員 もう少し細かく分けて、家族とお友達っていうのとか、会社関係であるとか、あるいは同じ地域であるとかっていう発想でいくと、ある程度数字は上がっていくと思います。無作為に13歳以上を取るっていう部分と、住んでいるところ、あるいは仕事関係で選べるかどうかわかりませんが、広範囲に活動している人から情報をいっぱい取れると思います。

事務局 アンケートの1,000人につきましては、福岡市の人口構成比に応じた形で考えており、場所というよりも、いろいろな世代の方のご意見を聞きたいと考えております。そういう疾患等の情報については、広くお聞きしたほうがいいと思いますので、家族に限らずもう少し広めに年齢とか症状とかをわかる範囲の中でアンケートにしていきたいと思います。

委員 友人、知人とかも入るような感じになりますか。

事務局 はい。おっしゃるように広くそういう状況をとらえる方向が大切だと思います。

委員 それは健康問題だけですか。他の項目とクロスさせるのだと思いますが、高齢者は携帯やパソコンなどはほとんど見ていないことから、情報発信のツールとしてはダメだと思うのです。だから、年齢と例えば情報発信のツールとかをクロスさせるといいと思います。全部あいまいになるとクロスができません。

事務局 全部ではありません。あくまで、問7の問題についてということです。

委員 健康問題だけですか。

委員長 はい、この問7のところですよ。

事務局 一点確認させていただきたいのですが、今現在は年齢構成だけで考えていますが、各区とかその地域性をやっぱり見るような形にしたほうがいいと言われるならば、一

番最初の年齢の下に「どこの区にお住まいですか」とお聞きしたほうがいいかと思っています。

委員 大気における健康被害という形でとらえていったときに、「黄砂等」として煙霧やオキシダントの話を含めてお聞きすれば、もう少し他の意味が出てくるのかなあと思いました。この1回の調査の中に、もう少し要素を入れていたほうがデータとしての価値が上がると思います。

委員 意識調査は目的によって使い方が違うと思います。情報を伝達するためにアンケートを取ることもあります。アンケートをすることによって周知させる。ただ、そういう要素を含めると、実態はつかめないのではないかという気がします。目的を絞るべきです。

それから、健康状態は医療機関で行われているサーベイランスで、今週はどうかのかがわかります。それとマッチングさせると黄砂の日数と医療機関の受診状況の関係が見えるのかなと思います。1,000人のアンケートだと偏りがあるのではないという気がします。

委員 数字は個人情報にはならないのでしょうか。呼吸器関係のところ、こういうときに増えたとか、子供の数が少し増えたとかわかりますか。それは出せるのでしょうか。個人情報には入りませんよね。

委員 数字的には出せます。サーベイランスがあれば、それはとれると思います。このアンケートは、何を指すのかをきちっと決めておかないと、情報が偏ってしまうリスクがすごく高いと私は思うのです。

委員 それは、例えば黄砂だけではなくて、光化学オキシダントとかを入れてしまうと、わからなくなるってことですか。

委員 入れるなら最初から質問項目を変えないといけませんね。黄砂等に関して、一つずつ知っているか知らないかを聞く必要がありますね。

委員 何回も取れるのだったらそうなくていいですが、いろいろ付加価値をつけていった方がいいと思います。

事務局 黄砂だけでなく煙霧も含めて議論すべきではないかというご指摘があると思うのですが、はじめは黄砂に焦点をあてて整理し、そこでどうしても整理がつかないというものや煙霧と一体的にならなければ整理がつかないということであれば、煙霧も含めた形で情報提供ということが必要になってくると思います。まずは黄砂に関する情報というものを市民の方にいち早く出していきたいということで、この検討を黄砂に絞った形にさせていただいた経緯があります。

今後の課題として、煙霧を考える必要があると認識はしております。

委員 市民の方には、たぶん黄砂か煙霧かはわからないのです。だから、市民の方は黄砂も煙霧も一緒に考えて書くと思うのですが、まずは黄砂に絞って意識調査したほうがわかりやすいと思います。

- 委員 煙霧とか光化学スモッグについては、また今後ということですよ。市民の方が欲しい情報としては、光化学スモッグが一番気になるところだろうと思ったので。
- 委員 情報提供としては、これは煙霧ですよ、黄砂ですよ、と分けて情報提供して、市民の方々に認識していただければ、それはそこで調査がもう一度できるのかなあとと思います。今は、たぶんどっちかわからない状態ですよ。
- 委員 光化学スモッグだけは、なんとなく違うって思っちゃってます。
- 委員 設問9について、黄砂以外にもあるのではないかという意見が出てくる感じがするのです。「黄砂について検討していいですか。」「いいですよ。してください。」と積極的になるように、もう少し広げた形で考えましょうか。
- 委員 黄砂だけではなくて、なんともやっほいたいとかありそうな気がします。
- 委員長 11番の最後に、もう1つ質問を付け加えることはできますか。
ところで、13歳以上は中学生になるのですが、これは大丈夫ですか。
- 委員 13歳という決まりはあるのですか。
- 事務局 ご自身で答えていただけるレベルと考えて、中学生以上となる13歳にしました。
- 委員 16歳以上の高校生なら少し周りが見える年齢だと思いますが、13歳くらいだったら自分の周辺が見える程度の発達段階だと思います。
- 委員 家族の症状を書く質問があるので、13～14歳の子供のことは当然親が把握しているでしょうから、親が書きますよね。そしたら、もう少し年齢を上げて、他の項目についても考えて書いてくれる方のほうがいいと思います。
- 委員 事前に事務局のほうから相談を受けていて、当院の小児科の先生にこの調査票を見ていただき、「13歳でもこれは答えられますか」ということを相談したのです。そしたら、「十分答えられます」ということだったので、事務局にはそうお答えしました。
また、当院の医師で統計をやっている先生から、まず先にアウトプットを想定して問診票を調整したほうがいいというコメントをいただきました。
それと、我々、医師が患者を診るときには、14歳からを成人として扱います。中学校2、3年生になると、成人として診られているということになりますね。
- 委員 小児科から内科に変わるってことですよ。
- 委員長 いろいろたくさんご意見いただきましたが、13歳からにすると良いと思います。
アンケートの内容については、とりあえず今回は黄砂、まあ煙霧とぐちゃぐちゃになるかもしれませんが、黄砂ということにしてもらって、もし可能ならば、設問12に黄砂以外のことについての質問項目を入れてもらうってことでよろしいでしょうか。
- 事務局 設問7には、「家族・友人・知人」も入れます。
- 事務局 地域は、もうわからなくていいということでもよろしいですか。
- 委員 そこまですることはないと思います。
- 委員長 10代の方は100人くらいですよ。
- 事務局 10代(13歳から19歳まで)は、74名となります。

委員 人口動態でいくので、どうしても高齢者の方が多くなるのではないかと。

委員長 高齢者はどれくらいになるのでしょうか。

委員 60歳以上が多いです。

委員長 次回、この集計が出ると思いますが、年齢層がどれくらいでどういう反応を示しているという感じで、年齢のことを少し考えて、集計結果がまとめたらいいかなという気がします。

委員 アンケートっていうのは年齢構成比に合わせないといけないものですか。

事務局 合わせる必要はありませんが、今回は年齢とかも考えてやったほうがいいので。

委員 確かにそうですけど、10代が70人で、65歳以上が2百何人いるって言ったら、10代のデータはいまひとつ信憑性がないのではないかと。だから、できれば、数がばらつかないようにした方がいいのかなって思いますが、どうですか。

委員 例えば60歳以上をひとくりにするっていうところが問題じゃないかなという気がしています。年齢そのものを書かせると様々な区分で集計できると思います。

委員長 一番最初の年齢区分も70歳以上っていうのを追加したほうがいいですね。

委員 「何区に住んでいますか」も追加したら、すぐわかるような気がします。

委員 ただ、アウトカムを想定すれば、情報発信は区別ではなく、大きく市としての情報発信になると思います。

委員 同じく問7-1なのですが、疾患がアレルギー疾患に限られていますね。60代、70代になりましたら、一般的に心疾患とかその他の呼吸器疾患も言われています。アレルギー疾患のみでなく、それが全部、その他の中にひっくるめられてしまっていますが、もし、福岡市の人口のピラミッドと合わせるのでしたら、若い人たちの4割以上はアレルギーがありますが、60代、70代になると心疾患とかが多くなるかもしれません。

委員長 せっかくなので、これにもう1つ違う疾患名を追加して「5.」とし、その他を「6.」にしたらよろしいですね。ここの項目で何をどういう疾患名にするかは、岸川委員と相談してもらって、追加してもらいましょう。

委員 循環器系も新聞記事にありましたね。

委員 そうですね。私たちはアレルギーのことしか知らないのですが、脳梗塞も言われています。

委員長 重要なところですので、お知恵をよろしくお願いします。

委員 友人まで入れるのですよね。

委員 友人を入れた場合、飛来したときに具合が悪くなった人がいたということで、右の方はわかると思います。でも、左の既往症の記入は難しいかもしれません。

委員長 その既往症のところ、年齢は60歳以上になっていますけど、60歳代と70歳以上に分けましょうか。まだ他にもご意見あるかもしれませんが、定刻に近づいていますので、これ以上ありましたら、私か事務局の方へ連絡してください。

(5) その他

事務局 (第2回委員会の開催日時と場所について連絡)

第2回目は、市役所15階 1505会議室にて、11月8日(火)13時から開催

委員長 どうもありがとうございます。これで、本日予定していた議事すべてが終わりましたが、最後に皆さまから何かありましたらお願いします。特にないようでしたら、本日の議事をこれで終了して、進行を事務局の方へお返ししたいと思います。

事務局 はい、どうも本日は委員長、そして委員の皆様、お疲れ様でございました。忌憚のないご意見いただきまして、こちらの方で資料または内容につきまして修正した上で、次回の開催をさせていただきたいと思います。それでは以上をもちまして、第1回の福岡市黄砂影響検討委員会を終わらせていただきます。
ありがとうございます。